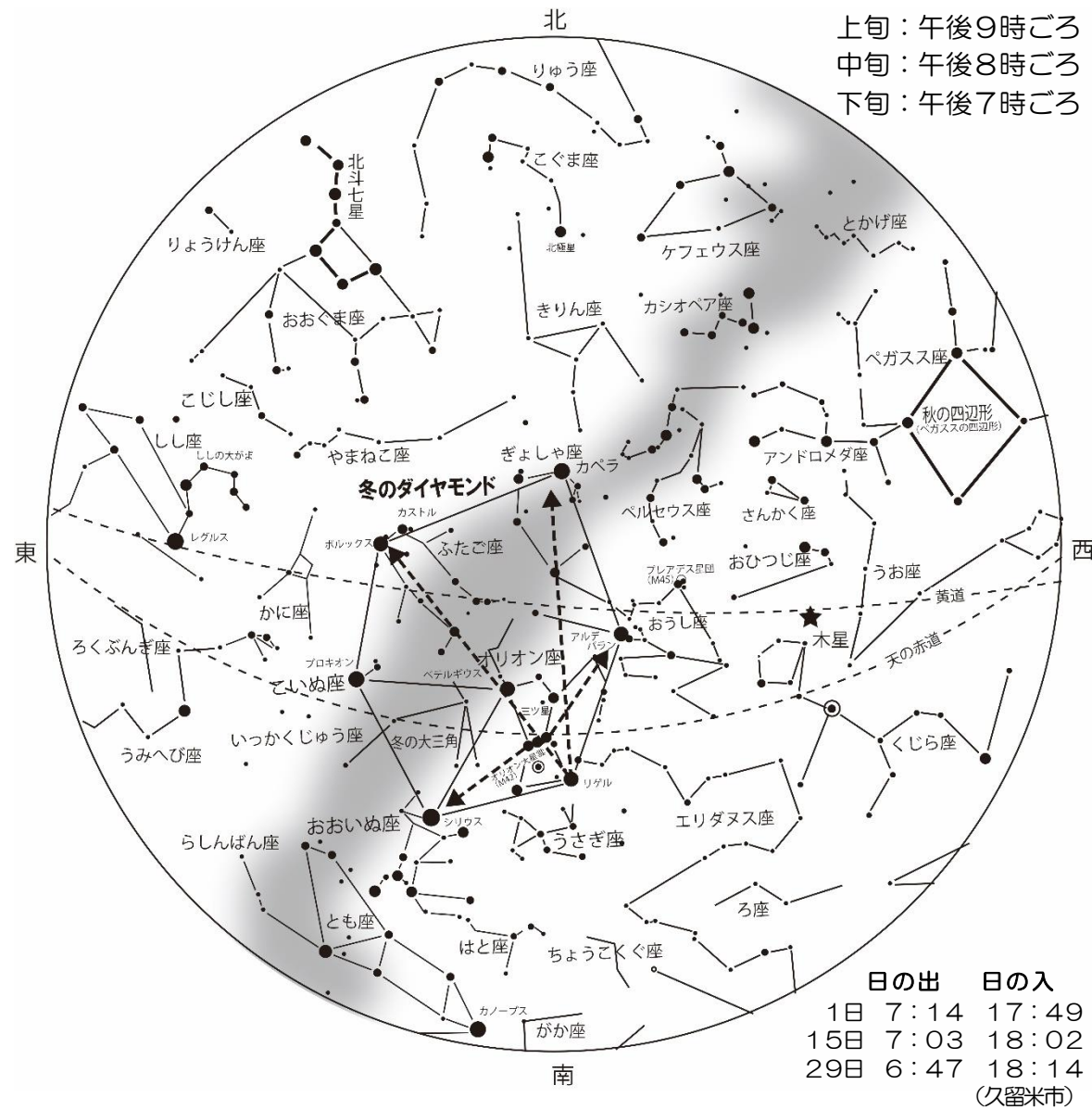


令和6年 2月の星空さんぽ☆ガイド

～ほしを眺めてみませんか～



★2月の星空案内

2月の星座さがしは、等間隔に並んだ3つの星“三つ星”と、それを取り囲む明るい4つの星がつくる砂時計のような星の並びのオリオン座を見つけるところからスタートです。オリオン座は明るい1等星を2つもっています。オリオン座の左上で赤っぽく輝く星は1等星のベテルギウス、そして、右下で青白っぽく輝く星が1等星のリゲルです。オリオン座のリゲルと、これからご紹介する5つの星座がもつ1等星を線でつなぐと『冬のダイヤモンド』を見つけることができます。

まずはオリオン座の“三つ星”を南東(左下)にのぼしていくと、1等星のシリウスが見つかります。このシリウスを目印に見つけることができる星座がおおいぬ座です。シリウスは星座を形づくる星の中で最も明るい星です。次に、シリウスから北東(左上)に目線に移すと1等星のプロキオンを見つけることができます。プロキオンを目印に見つけることができる星座がこいぬ座です。そして、オリオン座のリゲルからベテルギウスを結んだ線をのぼしていくと、1等星のポルクスを見つけることができます。ポルクスを目印に見つけることができる星座がふたご座です。オリオン座のリゲルから右上の星を結んだ線をのぼしていくと、ここには黄色っぽく輝く1等星のカペラを見つけることができます。カペラを目印に見つけることができる星座がぎょしゃ座です。最後に、オリオン座の“三つ星”を北西(右上)にのぼしていくと、1等星のアルデバランが見つかります。アルデバランを目印に見つけることができる星座がおうし座です。オリオン座のリゲル、おおいぬ座のシリウス、こいぬ座のプロキオン、ふたご座のポルクス、ぎょしゃ座のカペラ、おうし座のアルデバランをつないだ星の並びが『冬のダイヤモンド』です。

『冬のダイヤモンド』を形づくる1等星はとても明るく、街明かりの中でも見つけることができます。暖かい服装をして『冬のダイヤモンド』をぜひ探してみてください。

【見ごろの惑星】 (☆マークは、今月のおすすめです。)

- 水星 (-0.8 等前後)：へびつかい座→いて座付近 観望に適さない。
- ☆金星 (-3.9 等前後)：いて座→やぎ座付近 日の出前、南東の低空でひととき明るく輝く。
- 火星 (1.3 等前後)：いて座→やぎ座付近 観望に適さない。
- ☆木星 (-2.3 等前後)：おひつじ座付近 日の入り後、南西の空で明るく輝く。
- 土星 (1.0 等前後)：みずがめ座付近 観望に適さない。

注目の天文現象(2月) ～木星に近づく月と今年最も地球から遠い満月を観察しよう～

2月の日の入り後、南西の空高い位置では木星が明るく輝いています。この時期、木星は冬の明るい星たちを上回る明るさで輝いており、周囲に明るい星が少ない西の空ではすぐに見つけることができるでしょう。

この木星に2月15日(木)午後8時ごろ、西の空で月が近づきます。この時の月は三日月よりもかなり太くなっており、舟のような形をしています。

また、2月24日(土)の午後9時30分ごろ、東の空では、2024年で地球から最も遠い満月を見ることができます。月の見かけの大きさは、地球からの距離が遠くなるほど小さくなります。そのため、この日の満月は今年最も小さく見えます。それに対して10月17日(木)の月は、地球に最も近い満月になり、見かけの大きさは最も大きくなります。2月24日(土)の満月は10月17日(木)の満月と比べると、面積が22パーセント小さく見えます。実際の夜空で月を2つ並べて観察することはできないため、夜空の月を眺めただけで大きさの違いに気づくことは難しいかもしれませんが、大きさの違いを楽しみたい場合は、同じカメラ、同じ画角のレンズで、写真を撮り比較してみることをお勧めします。

今月は木星に近づく月や月の見かけの大きさに注目してみてください。